

1月23日 マルコによる福音書1章21～28節 今日の説教から
説教題：「神様の力で悪霊退散！」

今日の聖書箇所に記されているのは、イエス様が集まった人々の前で奇跡を行い、イエス様の言葉を信じる人々が増えていく様子を記した「奇跡物語」と呼ばれるものです。イエス様によって行われた奇跡は、福音書の中では大きく4つの種類に分けることができます。

一つ目は、先週少し触れました「自然現象に働きかける奇跡」です。最初の弟子たちを招くときに、ルカ福音書では夜通し漁をしても何の魚も取れなかつたシモンに対してイエス様は「沖に乗り出し網をおろしなさい」と命じると、舟が魚でいっぱいになるほどに大漁になりました。そのように「人間ではどうすることも出来ない自然現象を引き起こす」という神様の力を見せることによって、人々はイエス様の持つ神様の力を信じていきました。

二つ目が、今日の個所にあるような「悪霊払いの奇跡」です。ここに記されているのは、安息日にイエス様が会堂で聖書の話をしていた時に起きた出来事です。そこには「権威ある者」として語るイエス様の姿がありました。「こうしなさい」「こうしてはいけない」という言葉が、教師のような言い方ではなく、「絶対的な命令」としてイエス様からもたらされたのです。悪霊に対処するための方法は、旧約聖書には記されていません。ただ、そもそも靈とは神様から来るものであるという理解があった旧約聖書の中では、靈に対抗する方法というものは想定されていなかったのかもしれません。つまり、悪霊を送るのは神さまであり、悪霊を取り除くのも神様にしかできないことだと考えられていたようです。

三つ目の奇跡は「癒しの奇跡」です。聖書の中では何度か「死者のよみがえり」の奇跡も行われています。ただそれは「永遠の命を与える」という形ではなく「死んだ人間を起き上がらせる」という形行されました。そのため、イエス様が行った奇跡の中では「死という病をいやした」という意味で癒しの奇跡に含んでいいと思います。

そして最後の四つ目は、「罪の赦し」という奇跡です。これは神様にしかできないことで、神様にしか許されない事でした。その罪の赦しをいつでもどこでも行うことは、まさしく神様の業という意味で奇跡に間違いありません。病人やけが人が「汚れている人」と扱われ、宗教的な意味で「罪人」である以上、癒しの奇跡と罪の赦しは同じ問題となります。彼らの病をいやして、悪霊を追い払って、そして彼らの罪を赦すことが出来たイエス様は、紛れもなく「神様の力を持っている」ことが明らかなのです。

イエス様はそれぞれの場面で違う現象を起こしているのですが、その根本的な意味はどれもが同じものです。イエス様の時代の人々は因果応報、「今自分たちが苦しんでいるのは、過去の自分の行いのせいだ」という理屈で信仰を行っていました。私たちも、時に同じ考え方を持つことがあると思います。しかしそれでは、もし間違った行いをしてしまった時は、私たちの神様は「私たちを罰する神」になってしまうのです。そうではなく、私たちの神様は「私たちを愛する神」なのです。自然現象を動かす事も、罪の赦しや病・悪霊の癒しも、どれも神様にしかできないことだと信じられていました。イエス様はそれらを動かす奇跡によって、人々をいやし、時にその孤独を解きほぐしていました。イエス様は、「神様はあなたを罰する方ではない」「神様はあなたを愛する方なのだ」という事をその身をもって示してくれているのです。

私たちの神様は、私たちを罰する神様ではありません。私たちは、神様の愛に包まれて生きることが出来ているのです。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 1章 21～28節

- 21:一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。そのとき、この会堂に汚れた靈に取りつかれた男がいて叫んだ。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、汚れた靈はその人에게いれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた靈に命じると、その言うことを聞く。」イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。